

## 事例 4

# 壬生高等学校

地域連携教員	合田 理映 教諭	地域連携教員歴	2年
--------	----------	---------	----

## 1 コーディネーターについて

壬生高等学校は、「社会人・職業人として自立できる人間を育てる」ことを教育目標とし、特色ある教育活動に取り組んでいる。1学年では、自分の個性や適性について理解を深めるため、総合的な学習の時間に「職業と進路」を設定し、全員が職場体験学習(インターンシップ)を行っている。2・3学年では、自分自身の興味・関心や進路に合わせて選択する「コース別学習」を設定している。これらの教育活動では、生徒は地域での体験活動を通して学びを深めている。

また、壬生高等学校は町内で唯一の高等学校であることから、地域からの声かけも多く、生徒がボランティアとして地域行事に参加する等、地域との交流活動を長い間継続してきた。

このような背景から、壬生高等学校では、コース、部活動、生徒会ごとに地域と連携した教育活動やボランティア活動が多数行われており、それぞれの活動ごとに異なった地域側の窓口があり、コーディネーターの役割を担っている。

## 2 コーディネーターとの連携の実際

### ○壬生町主催の地域行事・イベントへの参加・協力

壬生町は、中学生及び青少年の地域活動を推進しており、町主催の行事・イベントで青少年のボランティアを募集する際は、町教育委員会の社会教育主事を通して学校に案内が来ている。町教育委員会から案内が来る活動は、複数の部活動が参加したり、有志を募って参加したりする活動であるため、学校側は主に地域連携教員が窓口となっている。

5月に行われた「蘭学のまち みぶ チャリティー交流会」では、吹奏楽部がステージで演奏、書道部とアニメーション部は作品の展示、美術部は展示と体験活動(ぬり絵)の実施、JRC部はステージの司会や記録写真の撮影等の運営ボランティアとして参加した。特に、JRC部は、不足しがちな運営スタッフとして参加しており、運営上欠かせない存在となっている。



「蘭学のまち みぶ  
チャリティー交流会」の様子

### ○壬生町立藤井小学校との交流

藤井小学校とは、1999年から交流活動が始まっており、17年間継続している。主な交流活動として、生徒会役員と有志の生徒ボランティアが児童の学習支援を行う「サマースクール」、福祉コースの生徒が児童と協力して調理を行う「調理交流」、生徒会役員とJRC部の有志が小学校学区内の清掃活動を行う「クリーン活動」、運動会の前日準備・当日の運営協力、小学生の「まち探検」への協力等がある。交流活動の小学校側の窓口は、教務主任や地域連携担当の教員が行っている。

### ○部活動の特色を生かした連携活動

野球部は、壬生町内の学童から高校生までの野球チームで構成されている「みぶまちを野球で盛り上げる会」に参加し、野球を通じて、町の活性化や子どもたちとの交流に協力している。このように、各部活動ごとに地域の団体等と連携し、部活動の特色を生かした連携活動を継続して行っている。

## 3 成果と課題

### ○成果

壬生高等学校では、活動ごとにコーディネーターの役割を果たしている地域の窓口があり、指名された明確なコーディネーターはいない。また、学校の窓口も各活動ごとに分担されており、有志を募る活動や新しい活動等は地域連携教員が窓口となっている。個々の活動を無理にまとめずに、それぞれの活動でそれぞれの担当が対応することにより、地域側も学校側も、窓口となっている者の負担が軽くなるとともに、連携が深まり、継続した活動ができている。また、継続している活動も多いため、各担当が直接話した方が話が伝わりやすいという利点もある。

### ○課題

行政と連携した活動では、行政担当者の異動の周期が短く、年度ごとに担当が替わりやすい。新しい担当者が慣れるまで、特に年度当初の活動では連絡がうまくいかないこともある。

## 4 その他

### ○生徒の様子について

地域と連携した様々な活動において、生徒はみな生き生きと、伸び伸びと活動に参加している。地域のイベント等への参加は、生徒たちが普段はなかなかできない体験ができる場になっている。また、地域の大人たちと一緒に活動することは、社会とはどういうものかを知ったり、地域がどのように作られていくのかを知ったりするよい機会ともなっている。地域でのボランティア活動に一度参加したことがある生徒は、有志のボランティアを募るときも積極的に応募してくれている。このことから、生徒は、活動を通して、やりがいや達成感、人と交流する喜び、楽しさ等を感じてくれているのではないかと考える。

### ○地域と連携した活動への教員の理解について

壬生高等学校では、地域との交流活動が長く続いていることもあり、課外授業や部活動と生徒の地域活動が重なったときなど、教員は地域活動を優先する雰囲気ができている。地域活動で生徒が生き生きと活動し、前向きに変化する様子を身近に感じているため、理解も深まっているのではと考える。